

第106回 関西広域連合委員会

日時：令和元年7月7日（日）

場所：兵庫県公館大会議室

開会 11時10分

○井戸広域連合長 お待たせいたしました。ただいまから第106回の関西広域連合委員会を開始させていただきたいと思います。

まず最初に、大阪府の濱田副委員より、百舌鳥・古市古墳群の世界文化遺産登録の報告と、G20大阪サミットへの協力に対するお礼のご発言があるとのことですので、お願いします。

○濱田副委員 失礼いたします。資料は特にございませんけれども、まず先月の末にG20大阪サミットが無事に成功裏に終了いたしました。構成府県市の皆様におかれましては、協議会事務局への職員の派遣でございますとか、交通規制の住民の皆様への周知、さらに地元製品の推薦など、大変なご協力をいただきました。おかげさまをもちまして、大きなトラブルもなく開催ができたと思っております、改めて御礼を申し上げたいと思います。

また、ちょうどほぼ同じようなタイミングになりましたが、昨日、大阪府、あるいは堺市、地元市と一緒に進めてまいりました百舌鳥・古市の古墳群の世界遺産登録が決定されまして、大阪府内では初めての世界遺産登録となります。こちらにつきましても、広域連合のほうでいろんな後押しをしていただいた経緯がございまして、またこれにつきましても御礼を申し上げたいと思います。

今後、この秋のラグビーワールドカップとか、2年後の世界マスターズゲーム、そして2025年の大阪・関西万博というふうに大きなイベントが続いてまいりますので、今回のG20、あるいは世界遺産登録、一つのきっかけといたしまして、ますます大阪、関西の魅力の国外への発信、国際的な発信、さらには地域の経済の活性化というところへ努力してまいりたいと思いますので、引き続きどうかご理解、またご支援のほど

お願いいたしまして、お礼のご挨拶とさせていただきたいと思います。どうもありがとうございました。

○井戸広域連合長　支障もなく円滑に開催できたということは、大阪の準備がしっかりされていたということだったのだろうと思います。

それから、百舌鳥・古市古墳群が無事に登録されたことは、大変我々にとっても朗報でありますし、観光にもしっかり活用させていただかなきゃいけないと思います。どこまで開放されるのかなどはこれからだと思いますが、何か価値を実感できるようなコースができるとうれしく思います。今後、よろしくご検討いただいたらと思います。

○飯泉委員　まずは、百舌鳥・古市の古墳群の世界遺産登録、おめでとうございました。そして、G20の首脳会談、ほんとに名誉なことといたしますかね、東京でなくて日本初開催が大阪、関西広域連合の地で行われたことは、非常によかったと思います。

そこで、今度はサイド会合ですが、9月の5、6日、G20の「消費者政策国際会合」が徳島県にて、消費者庁と徳島県の共催という形で行われますので、ぜひ関西広域連合各構成府県市の皆様方にもお越しをいただければと思いますので、どうぞよろしく願いをいたします。

○井戸広域連合長　9月の5、6日ですか。

○飯泉委員　5、6日です。ホテルクレメント徳島で行います。

○井戸広域連合長　そのお話に関連して、まず第一の報告、消費者庁等の移転方針の決定について、飯泉委員お願いします。

○飯泉委員　6月の21日、「まち・ひと・しごと創生基本方針2019」が閣議決定をされまして、関西広域連合の皆様方に絶大なるご支援、また、関西の経済界を含めてご支援をいただけてまいりました、徳島県で展開しております消費者庁の「消費者行政新未来創造オフィス」、3カ年の実証をやってみようということで、その結果を見て、さあこの後、消費者庁の移転をどうしていくのかということでありましたが、こ

のたび、規模、あるいは機能というものを今以上に拡充をして、そして、恒常的な機関として2020年度から展開をしていく方向で調整をしていくと、調整というのは今後概算要求があるわけでありまして、そうした意味では関西広域連合の皆様方に心から感謝を申し上げますとともに、特にこのオフィスに職員を関西広域連合としても派遣をいただいております、兵庫県、鳥取県の皆様方に感謝を申し上げたいと存じます。

今後、いよいよ新たな拠点がここに、そして、国の出先機関ではなく本庁機能をとということになっておりまして、また、消費者庁のほうからは、この中に新しい機能として、消費者庁には実は、国際関係の機関というものが無いということがありました。また、我々のほうからは、リサーチ機能を持たせるべきじゃないだろうか。

こうした形で、今後、ご紹介を申し上げた「消費者行政新未来創造オフィス」、そして、徳島県が中心となって行ってまいりますG20の「消費者政策国際会合」、この成果を上げることによって国際的な機関、あるいは、調査機関、こうしたものもこの徳島に展開をとというのが、その延長線上にございますので、ぜひこれからもオール関西で、そして、規模の拡充ということになってまいりますと、当然のことながら派遣の話が出てまいります。現在は、兵庫県と鳥取県ということでありまして、それ以外にも全国的な状況を申し上げますと、四国の他の3県、そして、秋田県から来ていただいております。そして、徳島県の5の市町からも入っているところで、あとは大塚グループを初めとする企業であるとか、今後は大学からも集めてこようということになっておりまして、ぜひ関西広域連合の構成府県市の皆様方にも、こちらのオフィスのほうにお越しをいただければ、今度は消費者庁の本庁機関となりますので、どうかよろしくお願いを申し上げたいと存じます。

○井戸広域連合長 何かご質問がございますか。

この新たな恒常的拠点というのは、どんな機能を果たすところと考えるといいのでしょうか。

○飯泉委員 まず、新たな恒常的というのは、この3カ年というのはあくまでも実

証でしたので、これが新たに本庁機能をもった部分が徳島にできるというのが、このまず読みということです。

そして、新たな機能というのは、消費者庁でもっているものの切り分けはもとよりのこと、少し申し上げたG20の「消費者政策国際会合」など、それ以外のものを踏まえる形でのレガシーとして残していく。あるいは、国家的なプロジェクトとして、障がい者、あるいは高齢者の見守りネットワーク、また、成年年齢が2022年の4月から今度は18歳に引き下げられるということがありますので、こうしたものに対する社会への扉、これによって2020年度中に47都道府県全てでこれによって高校で授業を行うということも、これは4省庁のアクションプログラム、また、昨年の全国知事会におきましての決議、これもなされているところであります、こうしたさまざまな国家的なプロジェクトを具現化していく実装の地としても活用していこうということになっています。

○井戸広域連合長 順調に新たな恒常的拠点が発足できるように、我々も協力をさせていたきたいと思えます。

続きまして、海洋プラスチックごみ問題から考えるSDGsシンポジウムの開催結果について、本部のほうから説明をさせていただきます。

○事務局 開催結果の報告をさせていただきます。

当日は、約340人の国や自治体職員、業界関係者などのご参加をいただきました。この資料の(4)とか、あと下の写真にもございますが、シンポジウムの中で三日月委員に「琵琶湖・淀川流域海ごみ抑制プラットフォーム」の立ち上げ宣言を行っていただき、その後プラットフォーム関係団体によるパネルディスカッションなどを行いました。

アンケート結果は、資料の(5)のとおりでございますが、その中にはプラットフォームへの期待などもいただいております。

シンポジウムの報告は以上でございます。

○井戸広域連合長 シンポジウムでは、「これをやったらいい。」というような対策は挙げられたのでしょうか。

○事務局 今回は、余りそこまでは踏み込まず、当該団体さんの取り組みとか、実証実験されてたりとかするので、そういうもののご報告をいただいて、情報共有したということでございます。

○井戸広域連合長 関西が先陣を切って、運動化していかないといけないですね。

○三日月委員 今回、我々としてプラットフォームの立ち上げを宣言すると同時に、パネルディスカッションで、例えば日本チェーンストア協会や、ペットボトルを多く扱われている全国清涼飲料連合会、コンビニエンスストアなどが会員の日本フランチャイズチェーン協会の方々にもご参加いただいて、ややもすると対立、対決したり、負担を求められて二の足踏まれる団体と一緒に問題共有しながら、今後の解決策等について意見交換を行いました。あと豊中市からもご参加いただいて、北摂自治体とスーパーマーケットの取り組みなんかをご紹介いただきましたので、ぜひ実態をしっかりとつかむということと同時に、何かポジティブアクションを推奨し、広げていくような取り組みを上流、下流、広域自治体で展開できればと考えているところでございます。

○井戸広域連合長 関西広域連合が呼びかけて、関西全体でまず取り組んでいくという形が望ましいのではないかと思いますので、ご検討いただきたいと思います。

平井委員、どうぞ。

○平井委員 全面的に賛成するものでありますし、これからの、せっかく大阪G20サミットの成果としてこういう青い海、これを守っていこうという発信を関西からやり、行動を起こすことが大切だと思います。

そういう意味で、琵琶湖から淀川下流域に至るその一つの固まりについての議論もあると思いますし、あと、例えば、丹後、それから、但馬、鳥取といったような日本海側とか、あるいは太平洋のほう、和歌山とか、徳島とかそうした外から結構流れつ

いてくるごみがございます。日本国内だけでは解決できないプラスチックごみの問題もありまして、その辺は国策を強く求めたり、それから、世界に向けても、せっかくG20をやったわけでありますから、日本は関西からそうした海洋プラスチックごみ問題をぜひエリア、リージョンの課題として解決していくと、こういうようなメッセージを出していくなど一つ突っ込んだテーマをもってやっていただけるとおもしろいんじゃないかなと思います。

○井戸広域連合長 積極的なご意見をありがとうございました。ともあれ、どう組織的に取り組んでいくか、少し三日月委員のところでご検討いただいて、その結果を踏まえて全体で取り組んでいくことにしていきたいと思います。

夏のエコスタイルはもう定着してきましたから、今度はこれを我々の環境問題の重点対策にしていったらどうかという感じがいたしますので、よろしく願いいたします。

○三日月委員 はい。

○井戸広域連合長 続きまして、ワールドマスターズゲームズの準備状況につきまして、ご報告をさせていただきます。

○事務局 資料の3をご覧くださいと思います。

来年の2月1日からの大会参加のエントリー受付開始に向け、この11月に参加者募集要項等の主要情報を発表したいと考えております。

参加者募集要項については、既に競技の実施要領、日程等は発表しておりますが、11月には、競技の実施要領、資格年齢基準、世界選手権を併催する場合の参加料など、更に詳細な内容について発表する予定です。

交通・輸送サービスにおいては、開催エリアを周遊できる交通パスや、競技会場にスムーズに移動できるシャトルバスの運行などの内容について。

宿泊においては、大会専用の宿泊施設の予約サイトの内容。医療救護においては、各会場の救護所等。また、これに加えて、大会の魅力・楽しみ方や、ボランティアの

募集についても発表する予定です。

発表方法についても、大会応援大使やアンバサダーとともに大々的に発表するなど、効果的に情報発信していきたいと考えております。

次のページをご覧ください。

大会開催2年前記念イベントをこの5月26日に開催させていただきましたので、その概要についてご報告します。

グランフロント大阪うめきた広場で、両会長をはじめ、アンバサダー、武井壮さん、桑田真澄さんらに登壇いただき、トークセッションを行うとともに、綱引きやラグビーなどの競技を体験いただくイベントを実施いたしました。

その結果、約5,000人弱、4,836人の方に参加をいただき、真夏日のような暑さではありましたが、トラブルもなく、無事に終えることができました。

組織委員会からは、以上です。

○井戸広域連合長 準備作業は、きっとこの3カ月間ぐらいがピークになるのではないかと思いますので、いろんな形でご相談させていただいたり、ご指導いただくことも多々出てくると思いますが、ご協力のほどどうぞよろしくお願い申し上げます。

どうぞ。

○三日月委員 少し質問なのですが、来年の2月からいよいよエントリー受付が始まりますが、エントリー期間はいつまでですか。

○事務局 来年2月からその翌年の2月末までです。

○井戸広域連合長 オーバーした場合、どういう調整をするのでしょうか。

○事務局 現在検討中ではありますが、枠からオーバーした場合には、ウェイティングリストに載せ、キャンセル等が出た場合に参加いただけるような仕組みを作ること考えているところです。

○平井委員 井戸連合長のお力をいただいて、JRの交通パスも手配は非常にいい形ででき上がったことに感謝を申し上げたいと思いますし、実はイタリアのほうに誘

致に行ったところから、広域をどうやって回るんだってというのは非常に先方からも言われていたところでごさいます、ぜひそうした交通パスを使いながら、さっき京都だとかの周遊観光の話がありましたが、旅をしにくると、スポーツツーリズムということをもろ正直に前面に打ち出すぐらいの募集要項なり、エントリーのそういうサイトのつくり方などを工夫していただければいいのかなと思います。

あと、実は今、鳥取県の境港というところで、今インターナショナルレーザークラスアソシエーションによりますセーリングのレーザー競技の世界選手権大会を実施中のごさいます、これで東京オリンピックの世界枠が決まるものですから、メダリストが続々今終結して、ちょうどレースが今、一区切りつこうとしているところであります。ここに、エリックさんという世界の事務総長さんも来られているわけですが、実はオークランドにも行ったというんですね。ワールドマスターズゲームズは、ILCA、インターナショナルレーザークラスアソシエーションもサポートしたいというような話もしてまして、ぜひじゃあ当日も来ていただいたほうがありがたいと、このような話もしたところのごさいます。

考えてみますと、それぞれの競技団体が世界組織がありまして、それらの本当の選手だけでなく、実はOBみたいな人たちがそういう組織運営をしてるんですね、おっさんたちが。その人たちはどっちかという、マスターズゲームズに興味がある人たちで、そっちのネットワークも使って募集をかけたら、個々の競技に興味がある人たちがまた掘り起こせるんじゃないかなと。

しかも、そういう中枢の人たちと関西を絡めることになれば、将来にわたってスポーツ大会、あるいは合宿地、あるいはリゾートとして遊びに来るところとしてレガシーが残せるんじゃないかなと思いますので、募集等に当たりまして、そういう世界の競技団体、今、マスターズゲームズのところだけですけども、それぞれ競技連盟もごさいますので、そちらへのアプローチも、東京オリンピック・パラリンピックでどうせみんなやってきますので、今、チャンスと、この1年間戦略的にアプローチしては

どうかと思います。

○井戸広域連合長 ありがとうございます。11月までにこの要綱をまとめるためには、主催者である各市町村と、それぞれの主催スポーツ団体がしっかり意思統一をして運営責任を負うということにならないといけませんので、その中で、今のような点も含めて対応できるようにしていきたいと思います。

世界中の参加者から見ると、今おっしゃったような世界の競技団体との関連で応募してくる方が多いはずですので、そのような意味からも、配慮していく必要があると思っています。

開催まで2年を切って、いよいよ準備にしっかりと取り組まないといけないという状況になってきました。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、4番目ですが、登録販売者試験の実施についてご報告いたします。

○事務局 今年度新たに関西広域連合で実施いたします登録販売者試験につきまして、8月25日、8会場にて実施し、10月4日に合格発表を行うことといたしております。出題形式及び問題数は、4肢または5肢択一、マークシート方式とし、5科目から計120問を出題いたします。出願者数は、現在のところ1万827名となっております。

ご報告は以上でございます。

○井戸広域連合長 しっかり試験を実施してください。

資料5は、スポーツに関する実態調査を行いましたので、その概要をご報告させていただきます。

○事務局 資料5をお願いいたします。

昨年度、関西広域連合の圏域内の府県市民を対象にしまして、スポーツ活動の実態、また健康に関する意識等について調査を行いました。サンプル層としては、1万件となっております。その結果について取りまとめができましたので、今回概要についてご報告をいたします。

一つ、まず一番目、スポーツ参画の現状ですが、スポーツ実施率、週1回程度の実

施を行っているというのが約46%で、国のほうの基本計画で実施率というのが65%という目標となっております。また、週3日以上という高頻度での実施率が約23%、これも国の目標としては30%というところから見ますと、若干関西ではスポーツの実施率が低く、まだ目標に達していないという状況となっております。特に、20代から40代の実施率が低くなっております。逆に、50、60、70と年齢層重ねるごとに実施率が高くなっているというような実態がございます。

こうしたことから、今後スポーツ実施率を上げていくためには、20代から40代、やはり働き盛りの層がスポーツを実施できるような取組、そういう意味で企業との協力関係が必要ではないかというふうに分析をしているところでございます。

裏面をお願いいたします。

裏面の下のほう、3番、国際スポーツイベントで、ワールドマスターズゲームズ2021関西への参加関心率、参加してみたい、ぜひ参加したい、または状況次第では参加したいというのが全体で15.4%となっております。これを年代別で見ますと、これが30代で20.1、順に見まして、70代で8.7と年代が上昇するとともに下がるという傾向がございます。

その下、4番、スポーツキャリアと健康状態ですが、健康に自信があるというのが全体で60.3%ですが、これは逆に年代が高くなるにつれて上昇するという傾向がありまして、最も高いのが70代で68.7となっております。そうしたことから、今後ワールドマスターズゲームズ参加促進を図っていくに当たりまして、特にシニア世代、60代、70代への健康に自信を持たれている方への参加を促していくのが有効ではないのかと考えているところでございます。

今回、概要でご説明をさせていただきましたが、報告書全体につきましては、各府県市の担当部局のほうに提供しておりますので、またご活用いただければと思います。

報告は以上でございます。

○井戸広域連合長 特にご質問等はございませんか。

どうして関西は働き盛り世代のスポーツ参加者が少ないのですか。

○事務局 関西はというより、恐らく全国的にそういった20代、30代、40代という。

○井戸広域連合長 国の目標が高過ぎるというわけですか。

○事務局 はい。

○西脇委員 全国の実績値との比較はないのですか。

○事務局 実績値のほうが手元にはございませんが、もしかしたら関西が低いというわけではなくて、まだ目標に達していないという状況にあるかもしれません。

○井戸広域連合長 よろしいですか。働き方改革の一環としてスポーツをやろうという運動も進めていかないといけないかもしれません。どうぞよろしく願いいたします。

続きまして、南紀熊野ジオパークセンターのオープンについて、平井委員からご報告をお願いします。

○平井委員 私のほうからするのもなんですが、ジオパーク担当として報告をさせていただきます。

20日後に、南紀熊野ジオパークセンターがいよいよオープンをすることとなりました。これは、こちらのほうでプロジェクションマッピングあったり、また、ジオラマがあったり、さらに専門員もこのたび2人設置をされ、100人ぐらいのジオパークガイドも応援をすると、このような形で参加もできますし、研究もできますし、ふっと立ち寄って潮岬のところでございますので、こちらのほうで観光がてらやってきて、ジオについての理解を深めていただくと、そのようなものになろうかなと思います。

7千万年前から2千万年前にかけてできました付加体と言われるもの、フェニックス褶曲など、そういうものがあれば、さらに1,800万年前から1,500万年前ぐらいまでの火成岩体、前弧海盆堆積体であるとか、さらにその後の火成岩体であるとか、そうしたものがいろいろと複層的にできたのが南紀熊野ジオパークです。

実は、山陰のほうと表裏一体でございまして、ちょうどその付加体が出てくるころ

に日本海ができ始めているんですね。ですから、それで大陸のほうから分かれて押されてきたとこで付加体が南紀熊野ででき上がっているというようなことをごさいますて、関西全体のジオパークを解明する意味でも大変に大きな意義のある施設だと思ひます。ぜひ、お越しくひださい。

○井戸広域連合長　　ありがとうございます。こういう施設ができてくると、ジオパークの内容がよく周知されて、理解されるということにつながりますので、歓迎したいと思ひます。7月27日にオープンですね、ありがとうございます。

報告事項は以上で終わりですが、あと資料配布がありますので、必要な部分について事務局から説明してくひださい。

○事務局　　令和元年度の施策運営目標につきましては、毎年度それぞれの担当のほうで設定目標を設定し、努力しているところをごさいます。引き続き、どうぞよろしくお願ひいたします。

資料8、関西創生戦略のK P I、これは毎年度設定しているものをごさいます。若干、昨年の実績等を踏まえ、情報修正したK P Iもごさいます。また、お目通しの上、各事務局で努力していきたくひと考えております。

最後、資料9のイベントスケジュール、ご参考に配付しておりますので、広域連合のさまざまなイベントについてご協力をお願ひいたします。

以上をごさいます。

○井戸広域連合長　　以上で用意しておりました議題は全て終了しましたが、この際をごさいます。何かご意見等ごさいますたらお願ひしたいと思ひます。よろしいですか。

それでは、第106回の関西広域連合委員会を閉会させていただきます。

ご協力、ありがとうございます。

閉会　11時45分